

『日本福祉大版 実践的スーパービジョン』

その研究範囲と枠組み

「人・集団・組織・地域への支援に関して、ミクロのみならずメゾレベルへも介入を行う専門職および当事者を含む周辺人材の実践・育成に当たり、以下のことを研究する

ヘテロ・ホモに関わらず、固有のSV関係をもって、一定の約束事の上、自己及び組織・地域の困難な課題を解決するために、個別・集団・会議等の方式を問わず、また事例提示のみならず報告書や計画書など様々な手段を介して、

SVerは指導を支持的基盤を元に教育的・管理的に実施し、SVeeは結果としてアセスメントに集約される、認識枠組みの変更による実践力の向上を得るプロセスを踏む、間接的支援方法およびその体制(システム)」

SV研究の組織化に向けて

SVサロンの設置（次年度案）

【目的】 教育と実践の現場を介した研究としての協働

【原則】 場と機会の保証 曜日を決めて 夜鶴舞会場提供
担当教員がミニ話題(小ネタ)を用意して座っている
教員同士のダベリングもある
参加は自由 単発でも連続でもかまわない
ざっくばらんカフェスタイル

研究や学習のための機会と場の提供
考えをまとめる、展開する材料の企画・提示



シンポジウム 福祉人材育成とスーパービジョン

地域で現場教育の質を確保するための取り組み

尾張スーパービジョン研究会 世話人代表
江南厚生病院 野田 智子



考 察

- 地域の中で働く管理的立場のソーシャルワーカー同士の自己成長の場は、私たちにはモデルとしてとてもよかった
- スーパービジョンは遠い存在ではなく、現場の実践の中に常にあり、方法さえ学べば根拠を持って取り組める内容である
- スーパービジョン実践を継続することは、バイザー・バイジー相互に支持・成長の場を確保することになる

